

放射線被ばくの影響に関する調査研究の進捗状況

平成 28 年 6 月 6 日

1. 甲状腺腫瘍の進展モデルを用いた甲状腺健診「悪性および悪性疑い」数の推定に関する研究

「全国甲状腺がん罹患統計に基づいた甲状腺腫瘍の進展モデルを用いて、先行調査対象者において「悪性および悪性疑い」数（期待観測数）を推定する。」

【目的】

甲状腺がんは自然史が未知であり、特に若い世代について、罹患の状態や進展のスピードについては分かっていないことが多い。そのため本研究は、甲状腺がんの進展の仕方についてのモデル（進展モデル）を想定し、そのモデルを用いて先行検査における「悪性および悪性疑い」数の推定を行うことを目的としている。

《現在の進捗》

- (1) 全国の一般的な状況の下で、甲状腺検査発見と罹患統計（1991～2010 年）を結ぶ進展モデル（検査発見、通常のがん罹患統計として把握されるまでの時間、およびその個人変動を考慮したモデル）を検討した。
- (2) このモデルに、福島県民健康調査甲状腺検査の対象者数とその受診割合を用いて、検査感度等いくつかの設定値を変化させながらシミュレーションを行ったところ、実際の観測者数（男性 39 人、女性 77 人）が観測される状況も、そのいくつかのパターンに含まれていた。
- (3) この結果について現在論文投稿中である。（査読者のコメント等により結果の表示など変更される可能性はある。）

2. 年齢階級別検査結果のデータを用いた記述疫学的探索研究

「甲状腺検査における一次検査結果、二次検査結果(病理細胞診結果等)を性別、年齢階級別に記述疫学的評価を行う。」

【目的】

県民健康調査「甲状腺検査」では、震災時18歳以下の全福島県民に対し甲状腺超音波検査を行うという前例のない大規模な検査が行われている。1回目検査に当たる先行検査は、チェルノブイリ原子力発電所事故後の小児甲状腺癌発症が増加する以前の震災後4年以内の期間において実施された。これは、今後引き続き行われる本格検査の結果を解析する上で、礎となるデータとなりうるものである。そこで本研究においては、甲状腺検査で得られた嚢胞、結節、細胞診結果等基礎的結果を年齢階級別に解析し、今後の結果解析に資することを目的としている。

≪現在の進捗≫

- (1) 先行検査における一次検査結果および二次検査結果を精査し、結果の修正を加え、データの信頼性のさらなる向上を図った（本検討委員会にて先行検査追補版として公表）。
- (2) 検査時年齢と性別で分類した一次検査時の嚢胞の検出率を記述疫学的に検討している。さらに、嚢胞のサイズ別頻度も解析している。
- (3) 検査時年齢と性別で分類した一次検査時の結節の検出率を記述疫学的に検討している。さらに、結節のサイズ別頻度も解析している。
- (4) 二次検査にて得られる細胞診診断上の悪性または悪性疑い例の検出率を年齢階級別に検討している。
- (5) これらの結果について、さらなる統計学的解析を進めている。

3. 甲状腺腫瘍の地理的分布に関する地域相関研究

「甲状腺腫瘍の地理的分布に関し、関連要因を解析する。」